

「全国に誇れる・選ばれるまちづくり事業（日本一施策事業）」
 選定取組一覧（平成25年度に実施した取組）

[取組の種類]

区分	考え方
① 独自性	地域の資源やアイデアを活用し、宇都宮らしさや獨創性・独自性があり、「宇都宮オリジナル」や「宇都宮モデル」として全国に誇れるもの
② 先駆的	市民ニーズや時代の趨勢を見据え、全国に先駆けて取り組むもの
③ トップクラス	活動量やその成果などが客観的・定量的に全国でトップクラスにあるもの

[取組一覧]

No.	取組名	概要	区分	開始年度	所管課	
1	教養講座「宮の朝活」の開催	早朝の時間を有効に活用し、多忙で日ごろ講座や勉強会に参加できない20代から40代の就労世代を対象に、最新の時事問題やまちづくりをテーマに教養講座を開催。講義後は、講師と朝食をとりながら意見交換、参加者間の交流も促進	先駆的	25年度	生涯学習課	新規
2	「防災教育の手引き」の作成	災害発生時に各学校において適切な対応がとれるよう、特に、本県で発生頻度が高い雷や竜巻を含めた指導事例や地震発生時の対応などを掲載	独自性	25年度	学校健康課	新規
3	国・県・市災害対策連絡協議会の設置	国、県及び市の連携組織の設置と合同訓練の実施	独自性 先駆的	19年度	危機管理課	
4	ネットワーク型コンパクトシティ構想の創出	本市の人口規模・構造や、都市活動に見合った将来の都市像の形成、独自の多核連携型（拠点化、ネットワーク化）	独自性	20年度	政策審議室	
5	宇都宮大学での「実践・宇都宮まちづくり」講座	国立大学法人において、全国の市町村で初となる市町村職員による講義を実施	独自性 先駆的	20年度	政策審議室 （市政研究センター）	
6	大谷石蔵（旧公益質屋）の活用事業	固有の資源である大谷石蔵（築70年超）を民間レストランに活用	独自性	21年度	地域政策室	
7	地域住民が主体となった地域内交通の実施	地域住民が主体となり、運行計画を決定し、地元自治会や企業等から協賛金を募り、地域内交通を運営（地域の実情に合わせた独自の運行方式）	独自性	19年度	交通政策課	
8	「自転車のまち宇都宮」の推進	プロサイクルロードレースチーム宇都宮ブリッツェンとの連携等により、施策事業を総合的に展開 1世帯当たり年間の自転車購入金額 全国1位（平成25年総務省「家計調査」9,448円）	独自性	22年度	交通政策課	
9	宇都宮ブランド戦略事業の推進	・都市ブランド戦略「宇都宮プライド」の展開 ・情報発信拠点としてアンテナショップ「宮カフェ」を中心商店街に設置、支援 ・宇都宮餃子消費量日本一奪還計画に参画し、官民一体となった活動により、3年ぶりに日本一を奪還	独自性 先駆的 トップクラス	20年度	広報広聴課	
10	政策特集の作成	市政の重要課題の特集を組み、広報紙の添付ハガキ等により、市民の意見や提案を聴取（年4回）	独自性	15年度	広報広聴課	
11	まちづくりセンターの設置・運営	地域活動団体や非営利活動団体、企業、行政が適切な役割分担のもと、公共的課題の解決に自主的に取り組む市民協働の拠点施設として設置	先駆的	23年度	みんなでまちづくり課	
12	消費生活相談窓口の常時開設	年末年始を除く全ての日において相談窓口を開設	先駆的	19年度	生活安心課	
13	グリーンアンドレッドリボン運動	交通安全運動や地域イベントなどの機会、事業者、学校などを通して市民に配布し、飲酒運転根絶に向けた気運を醸成	独自性	18年度	生活安心課	
14	DV被害者の自立支援事業の実施	DV被害者の「居場所」を整備し、民間支援団体との協働により、被害者とその子どもに対し、自立支援プログラムを実施	独自性 先駆的	21年度	男女共同参画課	

No.	取組名	概要	区分	開始年度	所管課
15	「宇都宮市配偶者からの暴力対策基本計画」の推進	DVを社会的な問題として捉え、全国に先駆けた取組を展開(・中核市初の基本計画, 全国の市町村初のDV被害者アンケート, 中核市初の中学生へのデートDVアンケート, 本市独自の連携組織)	独自性 先駆的	20年度	男女共同参画課
16	ユニバーサルデザイン文書マニュアルの策定	すべての人に分かりやすい文書・印刷物を作成する指針として, 文字の大きさや配色などの配慮事項を盛り込んだ文書マニュアルを中核市で初めて策定。各頁に音声コード(SPコード)掲載	独自性 先駆的	22年度	保健福祉総務課
17	みやシニア活動センターの設置・運営	シニア世代の経験や知識を地域に生かすため, 第2の人生の生活設計や地域活動などの生活設計のアドバイスを実施	先駆的	20年度	高齢福祉課
18	障がいのある人に対する情報バリアフリー推進ガイドラインの策定	障がいのある人が情報を円滑に取得・利用し, 意思表示や意思疎通を図れるよう, 障がい特性に応じた配慮事項や災害緊急時の対応等を掲載	先駆的	24年度	障がい福祉課
19	重症障がい児(者)医療的ケア支援事業	日中活動の場の確保等のため, 医療的ケアが必要な重症障がい児(者)を医療機関や福祉施設などで一時的に預かる事業	先駆的	20年度	障がい福祉課
20	市庁舎内障がい支援施設等製品販売所「わくわくショップU」の設置	障がい者の就労及び工賃水準の向上を図るため, 市内の障がい者支援施設で製作された製品の販売コーナーを常設	先駆的	21年度	障がい福祉課
21	「わく・わくアートコンクールinうつのみや」の開催	障がい者のアート作品コンクール。入賞作品を市内6か所で巡回展示するほか, 作品を掲載したカレンダーを作成し, 企業等に配布	独自性 先駆的	22年度	障がい福祉課
22	新たな二次救急医療体制の構築	救急告示医療機関の連携を強化し, 輪番制病院を支える体制を構築・稼働。15救急告示医療機関を輪番制病院と協力病院等に位置づけ, 医療体制確保のための財政支援等を実施	独自性 先駆的	21年度	保健所総務課 消防本部警防課
23	保健情報誌「みや健康ナビ」の発行	感染症や食中毒予防など, 日常生活に密着した保健情報を提供(年2回発行)。モニター調査員制度により, 継続的に意見聴取	独自性	23年度	保健所総務課
24	子育て世代の託児付き子宮がん・乳がん検診の実施	ボランティアサークルの協力のもと, 託児が無料でできるがん検診を実施	独自性 先駆的	22年度	健康増進課
25	食品安全条例の制定	食品の自主回収の届出の義務付けや自主衛生管理の認証などを盛り込んだ条例を制定	独自性 先駆的	19年度	生活衛生課
26	総合的な青少年自立支援対策の推進	・自立に困難を抱える青少年を社会的自立につなげる具体的な施策事業を展開(青少年自立支援プラン) ・青少年自立支援に関する相談窓口, 相談・支援事業(青少年自立支援センター)	先駆的	20年度	子ども未来課
27	妊産婦に対する支援の推進	【不妊治療費助成金】 ・特定不妊治療(体外受精・顕微授精)費について, 上限25万円(一部17万5千円)まで助成 ・一般不妊治療(人工授精)費についても, 上限3万2千円まで助成(年1回, 通算2年) 【妊産婦医療費助成事業】 ・妊娠から産後の体調不安定期(産褥期)までの医療費を助成(期間:母子手帳交付月から出産月の翌々月まで)	トップクラス	21年度	子ども家庭課
28	障がい児発達支援の推進	保健師や保育士, 理学療法士等により, 相談から療育まで一貫して対応 ・重症心身障がい児プール活動支援事業 ・早期療育支援事業(カンガルー教室) ・なかよしクラブ事業(在宅の障がい傾向児及びその保護者への支援等)(H8年度～)	独自性 先駆的	19年度	子ども発達センター 保育課
29	もったいない運動の推進	・環境配慮型・参加体験型イベントの開催 ・企業等と連携した「もったいない運動」のPR展開(H25～), 市内各所へのロゴマーク掲出 ・市内大学生や幼稚園教諭などを中心とした「もったいないひろめ隊」の結成(H25～) ・「もったいない係長」(ミヤリー)によるイベント出張や他団体事業との連携(H25～宇都宮農業協同組合, 宇都宮共和大)等	独自性 先駆的	17年度	環境政策課

No.	取組名	概要	区分	開始年度	所管課
30	「宇都宮市環境協定」の推進	・市と事業者との間で、環境への負荷低減等に係る協定を締結 ・工場見学会やパネル展示、騒音・振動の測定機器の貸出など	先駆的	20年度	環境保全課
31	UJIターン起業促進補助金	市外からのUJIターンによる新規起業者を対象に、事業・生活拠点に係る経費、法人設立経費を補助	先駆的	20年度	産業政策課
32	宇都宮版CSRの構築	企業と市民、行政の協働によるまちづくりを促進	独自性	20年度	商工振興課
33	おもてなし運動の推進	おもてなしモニター等を活用した、本市来訪者の満足度向上を図る取組	独自性	17年度	観光交流課
34	施設愛称によるプロスポーツ応援事業	本市で活動するプロスポーツクラブに対する市民の愛着と連帯感の醸成、および本市のブランド力向上を目指し、市有施設にプロスポーツクラブ名を冠した愛称を付与 ・市サッカー場 栃木SC宇都宮フィールド ・市体育館 ブレックスアリーナ宇都宮	独自性	21年度	観光交流課 (都市魅力創造室)
35	競輪場におけるファミリー型レストランの設置	競輪場来場者のみならず、八幡山公園来園者等も利用でき、競輪観戦ができるファミリーレストランを場内に設置	独自性 先駆的	21年度	公営事業所
36	道路見える化計画の策定	移動性や安全性向上のため対策箇所として選定された路線について、道路行政マネジメント(PDCAサイクル)を実践	先駆的	19年度	土木管理課
37	公共建築物の長寿命化の推進に向けた修繕優先順位判定フローの作成	・職員による劣化診断調査結果を基にした修繕計画の策定方式を構築 ・22年度より、「修繕の緊急度」と「部位・機器の重要度」の二段階の修繕優先順位判定フローに沿った客観的な修繕優先順位付けを行い、計画的・効果的に改修・整備を推進	独自性	22年度 (17年度)	建築保全課
38	魅力ある都市景観づくり推進活動費交付金	市民の自主的な景観向上の取組を促進するため、市民・事業者の活動費を支援対象とするなど本市独自の交付金制度を創設	独自性	21年度	都市計画課
39	組合施行による市街地再開発事業の推進	組合施行による市街地再開発事業の完了地区数 7地区(全国市街地再開発協会「日本の都市再開発」及び「市街地再開発2013」の再開発事例より)	トップクラス	S61年度	市街地整備課 (再開発室)
40	「もったいないの森 長岡」植樹事業	「樹林地の再生」をコンセプトにした、最終処分場跡地(長岡最終処分場第2埋立地跡地)の市民協働による植樹事業	先駆的	20年度	緑のまちづくり課
41	平松本町第三地区における「地籍整備型土地地区画整理事業」の実施	全国の市町村で初めて、土地地区画整理事業を柔軟に運用した「地籍整備型土地地区画整理事業」を実施	先駆的	22年度	東部区画整理事業課
42	水道料金等の収納率	・水道料金 98.51%(H24中核市1位) ・下水道使用料 97.59%(H24中核市3位)	トップクラス	20年度	サービスセンター
43	水道施設におけるクリーンエネルギーの導入	・水道施設の機能や特徴を活かしたクリーンエネルギーを導入(太陽光発電設備、小水力発電設備ともに中核市初) ・再生可能エネルギー利用率中核市1位(24年度末)(水道事業ガイドライン指標一覧より)	先駆的	19年度	水道管理課
44	水道事業における環境負荷の低減	環境負荷の低減を評価する指標である「配水量1m ³ あたりCO2排出量」の少なさ 中核市2位(24年度末)(水道事業ガイドライン指標一覧より)	トップクラス	19年度	水道管理課
45	安全で良質な水への取組	・松田新田浄水場において、ISO9001を取得(水道水の水質検査における高い技術力と精度を保証する「水道GLP」と「ISO9001」の両方取得は中核市初) ・塩素臭から見たおいしい水達成率中核市1位(24年度末)(水道事業ガイドライン指標一覧より)	先駆的 トップクラス	20年度	水道管理課

No.	取組名	概要	区分	開始年度	所管課
46	宮っ子の誓いの制定	「宮っ子の誓い」カードを市内の全小中学生に配付し、「宮っ子の誓い大使」等の認定を行うとともに、25年度には、「宮っ子の誓い」に掲げる行動の実践を要件とした「宮っ子心の教育表彰」の制度を創設	独自性	19年度	教育企画課
47	私立等小中学校との連携推進	・私立等学校を含めた市内全義務教育学校の相互理解を深め、課題検討を行う「みや人づくりカンファレンス」(学校長級)、「私立公立学校連絡会」(事務担当者級)の設置 ・連携による教育環境の充実(義務教育9年間皆勤賞、緊急情報提供、学校図書館支援サービス、人づくりフォーラムや食育フェア等への参加 など)	独自性	22年度	教育企画課
48	学校応援制度	企業名等が掲載された用紙や封筒などの学校用品の寄附を自治体が積極的に募る取組	独自性 先駆的	22年度	教育企画課
49	学校物品有効活用システムへのポイント制導入	学校物品有効活用システムを使用し、学校間の物品の貸借や譲り受けによりポイントを付与し、学校の配当予算に還元 ・地域学校園ごとに保有物品のリストを作成し、システムの利用拡大を推進	先駆的	20年度	学校管理課
50	学校応援基金の活用による特色ある学校づくりの推進	学校を特定した寄付金を受け入れるため、「学校応援基金」を創設し、地域と一体となった学校づくりを推進 ・「魅力ある学校づくり地域協議会」が基金を設立し、管理・運営を実施し、地域の支援による特色ある学校づくりを推進 ・「魅力ある学校づくり地域協議会」が独自に運営資金を確保できる仕組みづくりに役立つよう、「学校応援基金ガイドライン」を作成	先駆的	21年度	学校管理課
51	「小中一貫教育・地域学校園」の推進	独自の「会話科」や基礎教科の時数増加などを特徴としたカリキュラム、地域教育力を生かした学校教育活動支援 ・学力向上非常勤講師や外国語指導助手の配置 ・私立学校と連携した小6の進学先中学校訪問全市実施 ・学校一人配置教職員(養護教諭、事務職員、学校栄養職員等)との連携や、土曜授業の実施 等	独自性	22年度	学校教育課
52	外国人児童生徒教育の推進(外国人児童生徒への日本語指導)	国際交流協会や宇都宮大学等との連携、外国人児童生徒の適応状況に応じた指導 ・学期中 初期日本語指導教室(通級指導)、日本語指導者(母語による指導含む)の学校派遣(訪問指導) ・長期休業中 市民団体による日本語教室の開設(委託)	独自性 先駆的	21年度	学校教育課
53	スタンダードダイアリー の活用による学校と家庭の連携推進(いきいき学校プラン推進事業)	「スタンダードダイアリー」(学校教育スタンダード、宮っ子の誓い、食育等の内容を一体的に掲載)を作成し、児童生徒が毎日使用する連絡帳や生活ノートとして活用	独自性 先駆的	20年度	学校教育課
54	元気っ子健康体力チェック	児童生徒の体力向上を図るため、全ての児童生徒を対象に、国の全国体力調査に併せて、本市独自に体力テストと食を含めた生活習慣を分析し、活用	独自性	21年度	学校健康課
55	小・中学校全校及び給食センターへの栄養職員の配置	栄養職員の全校配置は、中核市で2番目、給食センターを含むと1番目の取組	先駆的	20年度	学校健康課
56	学校給食による地産地消・食育の推進	中央卸売市場等と連携し、本市の農産物を生産者情報とともに学校へ納入する「うつのみや菜ハイウェイシステム」を構築。地域の生産者から購入する産直方式と併用した取組を先駆的に実施	独自性 先駆的	15年度	学校健康課
57	全小中学校・幼稚園・保育所におけるシックスクール問題への対応	・「シックスクール問題対策マニュアル」を作成(24年3月改定)し、全小中学校を対象として、化学物質の低減など、健康的な学習環境の整備を実施 ・化学物質の影響を受けやすい乳幼児向けのマニュアルを作成(22年度)	先駆的	18年度	学校健康課 保育課

No.	取組名	概要	区分	開始年度	所管課
58	「食事マナー指導に関する手引」の作成	小中学校の学校栄養士と給食主任の代表によって作成した「食事マナー指導に関する手引」を基に、学年ごとのねらいに沿った指導を展開	独自性 先駆的	23年度	学校健康課
59	宇都宮版準備運動「みや!!元気っ子たいそう」の考案	児童生徒の体力や技能を増強する動きを取り入れた宇都宮版準備運動「みや!!元気っ子たいそう」を様々な機会に活用。小中学校教員が内容構成・撮影を行うとともに、保護者が「宇都宮の歌」を編曲し、西原小学校の児童が出演するなど、関係者の手作りにより指導用DVDを作成	独自性	22年度	学校健康課
60	「お弁当の日」の実施	お弁当の献立立案等を通じて、親子のふれあいや食事について考える機会を創出し、発達段階に応じた指導を全小中学校で実施。21年度から民間企業と連携して商品化、中学生の市コンクール大賞作品を市庁舎レストラン等で限定販売(23・24年度に2年連続で全国大会入賞)	独自性 先駆的	20年度	学校健康課
61	家庭教育支援事業の推進	学習機会の提供や、学校・家庭・地域・企業等と連携した支援など、総合的な取組を推進 ・親学出前講座の実施 ・保護者と児童・生徒を対象とした情報誌「こどもるつくる」の発行(年2回) ・支援ボランティア「家庭教育サポーター」養成(22年度～) ・家庭教育支援団体と連携した「親学講座」(25年度)	独自性	20年度	生涯学習課
62	宮っ子ステーション事業の推進	学校を拠点に住民等が主体となり、幼児期から学童期までの子どもの育ちを地域ぐるみで支援 ・放課後児童健全育成事業や放課後子ども教室事業 ・乳幼児と保護者の交流(子どもの家)(平日午前) ・小学校全児童を対象とした体験・交流活動(土曜午前) ・保護者の悩み相談等	独自性	19年度	生涯学習課
63	「うつつのみや地域教育メッセ」の開催	地域活動団体・生涯学習団体と市民が、活動紹介や情報交換を通して交流を図る「うつつのみや地域教育メッセ」を開催し、地域活動の活性化や活動機会を創出	先駆的	20年度	生涯学習課
64	視聴覚ライブラリーの運営と市民団体の映画会活動	16ミリフィルム教材貸出本数が、全国でトップクラスの活動を展開 ・Google, Yahoo検索でホームページ検索 全国1位(25年度調査) ・16ミリフィルムの貸出本数(925本/年) 中核市2位(24年度調査)	トップクラス	15年度	生涯学習課 (視聴覚ライブラリー)
65	うつつのみやこども賞	全国の市町村で初めて、児童自身が優れた図書を選定する事業を実施 ・年間の最優秀作品を「うつつのみやこども賞」として顕彰	先駆的	S59年度	生涯学習課
66	「家庭の教育手帳」による家庭における人づくりの推進	小中学校9年間を通した子どもの教育に関する便利帳を作成し、市内全小中学校の保護者へ配付。子どもの学齢期に応じた取組や成長記録、学校の仕組みを一体化させた保護者向け冊子で、座談会、インタビュー結果等を反映 ・「家庭の教育手帳」を活用した親学出前講座を実施(平成25年度)	独自性	22年度	生涯学習課
67	地域教育の推進(地域人材の育成拠点「人材かがやきセンター」の設置)	地域を支える人づくりの拠点を設置し、学校・家庭・地域など活動する場所や活動レベルに合わせた育成事業(生涯学習コーディネーター養成や定年後の成熟期世代を対象とした地域デビュー講座等)を実施するほか、先駆的・モデル的な講座として、25年度から就労世代を対象とした早朝講座等を実施	独自性 先駆的	22年度	生涯学習課
68	宇都宮市成人式事業に係る広告事業及び協賛制度の導入(新成人応援制度)	24年成人式から、地域企業等が協賛金を拠出し、企業等名を印字したポスターを会場に掲示する協賛制度とともに、案内状・プログラムに広告を掲載する広告事業を導入(中核市初・「宇都宮モデル」として全国に誇れる取組)	独自性 トップクラス	23年度	生涯学習課

No.	取組名	概要	区分	開始年度	所管課
69	魅力ある学校づくり地域協議会の設置・運営	市内全93小中学校区において、学校評議員制度や学校支援地域本部の機能、家庭・地域の教育力向上に向けた機能を併せ持つ協議会を設立(18～20年度)。「宇都宮版コミュニティ・スクール」として本市独自の運営体制を構築(全小中学校における取組は、中核市で唯一) ・平成25年度、地域での活動事例等をまとめた活性化実践事例集を作成	独自性 トップクラス	18年度	生涯学習課 学校教育課
70	多様な市民が集い、宮っこを育む複合拠点「南図書館」の運営	図書館運営に中核市初となる指定管理者制度を導入。民間のノウハウを活かした交流スペースの活用やコンサートの開催、児童書・教育・子育て関連資料の充実、学校支援室の設置、保育士が常駐するプレイルーム整備などさまざまなサービスを実施	独自性 トップクラス	23年度	生涯学習課 (図書館)
71	子どもの読書推進(子どもの読書環境の充実に向けた図書館づくり)	・学校図書館司書の全校配置、学校支援室設置(南図書館)、学校支援サービスの拡充等 ・1か月当たりの読書量:小学生28.7冊、中学生9.7冊(全国平均の約2～3倍(25年度)) ・図書館の児童書蔵書数:568,290点(中核市1位(25年度)) ・図書館の児童書の貸出点数:1,532,444点(中核市2位(25年度)) ・高校生向け情報誌「MIYATEEN」発行(中央図書館)	独自性 トップクラス	18年度	生涯学習課 (図書館) 学校教育課
72	図書館における財源確保	・不用になった図書館資料を、年4回市民に有償で提供(有償は県内初) ・雑誌スポンサー制度(23年度～) 民間事業者等が購入費を負担した図書館雑誌の最新号のカバーに広告を掲載 ・図書館カレンダー・しおりへの広告募集	先駆的	23年度	生涯学習課 (図書館)
73	妖精によるまちづくりの推進	全国でもユニークな妖精をテーマとした公立展示施設「妖精ミュージアム」を拠点に、妖精資料を活用した活動を展開	独自性	15年度	文化課
74	一学校一文化財保護活動の推進	瓦塚古墳群や城山のシダレザクラなどの文化財について、市内15校で学校と地域が協働で清掃や保護活動を実施。小中一貫教育の地域学校園においても、各地域内に所在する指定文化財等を活用	独自性	17年度	文化課
75	エスペール文化振興事業	文化芸術活動が顕著な本市ゆかりの若手芸術家に賞を授与する本市独自の制度 ・25年度は、受賞者の育成・支援を目的に、市民に身近な場所で演奏や作品発表等を行う「プロボート事業」として「旧篠原家アートデイ2013」等8本の事業を実施	独自性	13年度	文化課
76	百人一首のまちづくり	市制100周年を機に、本市ゆかりの百人一首市民大会を開催。市民を対象とする公的機関主催の大会としては、全国最大規模 ・23年度から25年度まで、百人一首普及啓発事業(みやびい百人一首フェスタ)を開催 ・オリジナル百人一首アニメーションDVDを地元大学等の協力により作成・配布	独自性 トップクラス	8年度	文化課
77	ジャパンカップサイクルロードレースの開催	・クリテリウム開催に合わせたイベント「WELCOMEクリテリウム」開催(H23～地元商店街等との連携) ・地元フリーペーパーと連携した情報発信 ・外国人観戦者向けの多言語チラシ(英・仏・中・韓)の発行 ・JR宇都宮駅周辺における歓迎フラッグ掲出 ・商業施設と連携した臨時サイクルステーションの設置(H25～)	トップクラス	4年度	スポーツ振興課
78	スポーツ大会全国大会出場校応援団への助成	スポーツ大会の全国大会に出場する際、生徒による応援団を編成した市内の小中学校・高等学校を対象に、交通費等の一部を本市独自に助成	独自性	21年度	スポーツ振興課

No.	取組名	概要	区分	開始年度	所管課
79	冒険活動教室の実施	全小中学校を対象とした独自の自然体験活動、各学校の要望に応じた豊富な活動プログラム ・中一ギャップ解消のため、地域学校園内の小学校や中学校との交流、職員連携(23年度～) ・小中一貫教育を踏まえ、小学校での経験を深める活動(25年度～)	独自性	8年度	スポーツ振興課
80	特別支援教育の推進	中核市で一番早く特別支援教育に関する基本計画を策定するとともに、全小中学校校内に「特別支援教室(かがやきルーム)」を整備し、発達障がい等の傾向にある児童向けに個別指導を実施。22年度から、企業の協力を受け、中学校特別支援学級生徒を対象とする「写真教室」及び「合同写真展」を開催	先駆的	19年度	教育センター
81	不登校児童生徒の適応支援事業の推進	全国に類を見ない個別対応型の適応支援教室「まちかどの学校」を設置。1対1の個別対応から開始し、集団を苦手とする児童生徒にも対応するほか、約50のゼミ活動を設定し、個別に活動プログラムを編成	独自性	16年度	教育センター